

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス	開設学科		健康栄養学部		
科目名称	教育の方法と技術					授業形態	講義		
科目コード	750066	単位数	2単位	配当学年	3年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	
担当教員名	上池 恭廣								
授業概要	<p>文部科学省は、「学校現場における諸課題の高度化・複雑化により、初任段階の教員が困難を抱えており、養成段階における実践的指導力の育成強化が必要」とし、教員養成課程において、教師の質を高める指導が必要とします。このことから本科目の授業を下記の目的で実施します。目的) 本科目は、教員を志望する学生に、学校教育における教育の方法及び技術に関する知識・技能を身に付けることを目的とし、具体的には宮崎県の高校教育現場で農業教育31年間の経験を基に「授業力」、「学級経営力」「子供への対応力」の3つの要素を「大学の学部の養成段階において身につけたい力」として実施します。具体的には、①授業に必要な技術（講義形式・授業の組み立て、アクティブラーニング、グループワーク・実験学習）などをテーマに応じて学ぶ。②学級経営をする上での資質能力。③子供・生徒への対応、子供と教師との距離感。加えて教師の危機管理能力。教師として備えておきたいモラルなど教師として身に付けるべき資質を学びます。</p>								
関連する科目	農業科教育法、理科教育法を受講しておくことが望ましい								
授業の進め方 と方法	<p>①基本的な授業の進め方としてプリントを作成・配布して、重要な内容をまとめ、講義を行います。 ②毎回授業の始めに過去の教員採用試験の問題（個人面接、集団面接、筆記試験）を、個人又はグループで考え発表させます。加えて毎授業二人ずつ2分間スピーチを行います。このスピーチは人前で発表し自己表現や人前で発表することを強化します。 ③毎回、学生にレポート（面接問題、教員採用試験問題、授業の感想、自己評価）を電子メールで提出させます。提出されたレポートは、添削、採点、コメントを入れて毎回電子メールで各個人に返信し、講義にて回答のフィードバック、解説を行います。 ④授業テーマについて一斉授業、アクティブラーニング、グループワークを組み合わせ対話的で深い学びを実践します。授業では一斉授業、グループワークを取り入れて課題解決を図ります。「グループワークにて協議した内容は、学生によるプレゼンテーションにて発表させます。」 ⑤毎回、授業の最後に自己啓発、メンタル面の強化の意味も含めて元気・勇気もらえる言葉を紹介しします。 ⑥授業を想定して、各自授業テーマを設定しパワーポイントによる5～10分間の模擬授業を実施します。（ICTの活用）</p>								
授業計画 【第1回】	<p>序論 ①教育の方法と技術を履修するにあたってのオリエンテーション①、ガイダンス、心構えを理解する。 ②授業の基本的な進め方について確認及び講師、受講学生の自己紹介。 ③教職に関する心構え等に関するアンケート実施。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>教師を目指す学生への期待 ①教職に関するアンケート結果報告（教職を履修した主な理由等） ②31年間の教師生活で思う事、教職を目指す皆さんへ期待する講師の思い。 ③面接、教職教養問題の解答及びレポート提出。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>理想の教師像について自分の考えをもつ ①教師を目指す上で大事だと思うことをまとめる ②前回のレポート結果をまとめ報告します。 ③面接、教職教養問題の解答及びレポートの提出。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>これからの子どもたちに育みたい資質・能力 ①面接、教員採用試験の模範解答と解説（志望の動機と考え方、書き方） ②これからの子どもたちに育みたい資質・能力（資料：文部科学省・教師に求められる資質・能力、アンケート） ③面接、教職教養問題の解答及びレポートの提出。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>教師に求められる授業力とは ①教師に求められる資質・能力 ②授業を実践するために必要な力 ③教師として学び続けるために ④面接、教職教養問題の解答及びレポート（理想の教師像）の提出。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>授業設計の基礎（1） 「授業をつくるということ」 ①授業ができるまで ②授業の基本形：「導入」「展開」「まとめ」 ③主体的・対話的で深い学びに向けて（アクティブ・ラーニングの活用） ④面接、教職教養問題の解答及びレポート（理想の教師像）の提出。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>授業設計の基礎（2） 評価をデザインする ①学習の成果を測る方法（評価）について学ぶ（学習目標に応じた評価の方法） ②面接、教職教養問題の解答及びレポート（理想の教師像）の提出。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>授業設計の基礎（3） 学習環境をデザインする ①児童・生徒の学びを支援するという観点から「学習環境」について考える。 ②学習環境を活用する授業づくりとは。 ④面接、教職教養問題の解答及びレポートの提出。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>授業実践の基礎（1） 授業を支える指導技術（授業を実施する際、教師はどのようなことに気をつけているのか） ①授業を行う上で教師が身につけておきたい基礎・基本を「教師としての立ち振る舞い」「発問・指示・説明」「黒板・資料の提示」の3つの視点から説明します。 ②面接、教職教養問題の解答及びレポートの提出。</p>								
授業計画 【第10回】	<p>授業実践の基礎（2） 学びを引き出す指導技術 ①学習者中心の授業を成立させるポイントを、授業の名人と呼ばれた先人達の知恵を借りながら、具体例を示します。 ②面接、教職教養問題の解答及びレポートの提出。</p>								

授業計画 【第11回】	教師に求められる危機管理能力とは ①生徒の命を守る危機管理とは（具体例を挙げて学びます。） ③教師のコンプライアンスとは（具体例を挙げて学びます。）
授業計画 【第12回】	情報化への対応（1）授業の魅力・効果・効率を高めるICT ①ICTの特徴を理解し、学びのスタイルに応じた適切な活用を学びます。 ②ICTをどのように活用すればよいか？ ICT活用の意義、目的を考えます。 ③面接、教職教養問題の解答及びレポートの提出。
授業計画 【第13回】	情報化への対応（2） 情報活用能力を育てる ①情報技術の発展により、社会の情報化はますます進んでいくことが予想されます。情報社会を生きる力である「情報活用能力」を考えます。 ②情報技術、情報社会、情報活用能力、情報モラル ③面接、教職教養問題の解答及びレポートの提出。
授業計画 【第14回】	模擬授業を実施する。情報化への対応（3） 情報活用能力を育てる ①情報機器を用いての模擬授業の実施（パワーポイント等を用いての模擬授業）
授業計画 【第15回】	模擬授業を実施する。情報化への対応（3） 情報活用能力を育てる ①情報機器を用いての模擬授業の実施（パワーポイント等を用いての模擬授業） ②授業のまとめ
授業の到達目標	1) 本授業は、教育の方法と技術に関する基礎的な知識を修得し、教育現場で実践できるイメージづくりを到達目標とする。 2) これからの社会を担う子供達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 3) 教育者としての心構え、教師の資質を養うと併に教育の目的に適した指導技術を理解し身につける。 4) 教育者になるという意欲、熱意を高める。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外の学修 【予習】	・講義の終盤で自分の専門分野のICTを活用した模擬授業を実施します。準備を進めておいて下さい。
授業時間外の学修 【復習】	・毎講義、学生の皆さんにレポートを提出してもらいます。内容は面接問題、教職教養の解答です。必ず期限通りに提出下さい。
課題に対する フィードバック	毎授業、出題する課題レポートはメールで提出させ、評価し、コメントを入れて返却します。
評価方法・基準	1) 毎講義のレポート：40点 2) 模擬授業：10点 3) 最終レポート：30点 4) 授業への意欲・態度（発表等）：10点 5) ファイルによる授業資料、レポートの整理、提出：5点 6) 毎授業の自己評価：5点 ※テストは実施しません。レポート提出になります。
テキスト	講義資料は毎講義始めに配布します。コロナ禍でオンライン授業になった場合は、南九州大学ユニバーサルパスポートにて毎回講義前日までに添付しますので学生の皆さんは、講義時間までにプリントアウトし講義に持参して下さい。
参考書	中学校学習指導要領 ・高等学校学習指導要領 ・学習設計マニュアル（北王路書房） 新しい時代の教育の方法 ミネルヴァ書房
備考	①農業高等学校勤務31年間の実務経験を有する教員が授業を担当します。 ②毎講座のレポートは必ず期限通りに提出下さい。レポート提出方法はパソコンでのメール提出とします。 ③コロナ禍でオンライン授業になった場合は、授業内容を若干変更する場合があります。